

タブレット端末

2022・1・26 重枝 一郎

(以下、「タブレット導入について」の校長から保護者へのお話)

保護者のみなさまこんにちは。校長の重枝です。いよいよ本校も来年度より生徒にタブレット端末をもたせ、ICT活用授業を推進していきます。これまで本校におけるICTの整備状況は十分とは言えませんでした。ICTを取り入れた授業は、先進校のデータからも学習意欲が向上することが明らかになっています。今回、生徒にタブレット端末をもたせるようにしました。これから重要になるのは、このようなインフラを整備したその先にあると考えます。ICTの長所を生かし、指導を工夫し、効率化できるところは効率化して、いかに学びの質を高めるか。私たち教師の日々の授業では、その試行錯誤が始まります（すでにこの1年間、職員研修会等で準備を進めてきています）。そして、実践しながら、指導改善につなげるといったサイクルを回していくこととなります。

今、国的には「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善がどの校種でも行われています。本校も、教員が一方向的に教える授業から、ペアやグループでの話し合い、意見交換など、生徒が能動的に学ぶ授業への転換を図ってまいっています。コロナ禍でなかなか難しいところもありますが、それを推進しやすくするのがICTだと思います。

例えば、クラスで意見を共有する場合、口頭発表では一人1分としても40分はかかります。それがタブレット端末のソフトウェアを使って意見を書き込んでもらえば、一覧化でき、全員の意見を一度にまとめて見られます。また、人前で緊張して発表できない特性をもつ生徒もタブレット端末に書き込むのであれば、誰もが意見を出せます。多くの意見を基に気付きを得、考えを深めていく、これがアクティブ・ラーニングということにもなります。「活動あって学びなし」と言われるよくない授業とは、いくら活動しても生徒が思いや考えを表出してなくて、学び合いになっていないことを言います。ICTを活用することは、そうならないための強力なツールなると考えます。しばらくは、「これはタブレット端末の活用が効果的だ」「ここはノートに鉛筆で書かせよう」などとデジタルとアナログのそれぞれのよさを生かしていくことになるでしょう。

私たち福岡女学院中高の教師も授業デザイン力を向上させていきたいと考えています。タブレット端末を活用することで、これまでより私たち教師も、生徒の様子に気を配れるようになり、「指導」より「支援」に重点を置けるようになると思います。

これからも、生徒たちが前を向き、全員参加するといった“意欲からの落ちこぼれを生まない”授業を積み重ねていくことで、本校の学力向上を目指していきたいと思っています。

また、この本校のICT推進事業において、本学院同窓会よりタブレットカバーを全員分寄付していただくことになりました。同窓会のみなさんも、今を生きる後輩たちの将来の可能性が広がればという思いがあります。本当にありがたく感謝申し上げます。

「つながれば ひろがる」